

## 過去における主な災害一覧

No. 1

年 月 日	原 因	概 要
1659. 4.21 万治 2. 2.30	地 震	岩代、武蔵、下野地震。那須にて100余棟傾覆、死者39人。(大日本地震史料)
1662. 7.28 寛文 2. 2.30	暴 風 雨	日光大風雨。稲荷川洪水のため沿岸の人家300戸流失、660人死亡。(栃木風土記)
1667. 7. 寛文 7. 6.	洪 水	日光稲荷川氾らんし東照宮危険となる。(同上)
1683. 6.18 天和 3. 5.24	地 震	日光江戸地震。東照宮被害。山崩れ。余震夥し。5月17日から地震頻発し、24日には196回の余震があり、日光山では慈眼大師の宝塔。家康、家光の墓石倒る。(同上)
1683. 10.20 天和 3. 9. 1	地 震	日光会津地震。(大日本地震史料)
1700. 9.30 元禄13. 8.18	暴 風 雨	宇都宮大暴風雨にて民家の8割が倒壊した。(栃木風土記)
1723. 9. 9 享保 8. 8.10	暴 風 雨 (五十里 洪水)	8月8日より大雨降り、9日の夜半より10日にかけて大洪水となり、五十里沼決壊し、鬼怒川、田川沿岸の人畜の死傷無数。家屋流失等による被害甚大。(下野之展蚕業他)決壊した五十里沼は、この年より40年前の天和3年に日光御神料戸板山の山崩れが男鹿川を堰止めてできたと伝えられる。(お天気日本史)
1746. 5.14 延享 3. 3.24	地 震	日光江戸地震被害あり。(大日本地震史料)
1746年 明和元年	洪 水 (源之丞 洪水)	宇都宮大洪水となり、新田町(清住町)、池上坂下は6尺以上、宮島は一丈以上の濁流にて流失家屋240戸、水死300余人。
1766. 7~10月 明和 3. 6~8月	洪 水	関東りん雨洪水死者多数。五十里洪水とともに徳川時代の大洪水の一つである。(明治雑記他)
1773. 3.29 安永 2. 3. 7	大 火	宇都宮大火、死者130人、1,817戸焼失。二荒山神社焼失。(宇都宮誌)
1783. 6~10月 天明 3. 6~9月	飢 き ん	諸国寒冷による大飢きんで関東、奥羽で飢死にするもの25万人といわれ、下野領内には各地に米騒動を生じた。(栃木風土記)
1813. 2.21 文化10. 1.21	大 火	宇都宮大火、死者10人、2,000軒を焼失。(宇都宮古事記)
1832. 3.24 天保 3. 22	大 火	宇都宮本郷町より馬場町まで7町焼失。二荒山神社および末社を焼失。(宇都宮城史)
1836.7~8 天保7.5~8月	飢 き ん	関東、奥羽諸国寒冷。丙甲の5月より8月まで冷氣にて雨天多く、盛夏といえども寒きこと膚をきるが如し常に衣を重ねたり、関東八州奥羽飢民夥し。(老農関根矢作)
1836.8.29 天保7.7.18	暴 風 雨	南東の大風雨河川大洪水、午後2時頃より北西の大風にて宇都宮にて家数50軒余吹倒され、雨水洪水家々床に乗る。(同上)
1837年 天保8年	火 災	此年今市のほとんどを焼く。(同上)
1845.10.10 弘化2.9.10	暴 風 雨	下野大風雨洪水。(続泰平年表)
1846.8.7 弘化3.6.16	暴 風 雨	関東大風雨洪水、鬼怒川、荒川、田川、娑川、小倉川、巴波川、思川近年稀なる洪水で常水より高きこと一丈七尺に及ぶ。潰家14軒、流失1軒、田畑石砂入及び水入2,582町歩。(日本震災録)
1859.8.23 安政6.7.25	暴 風 雨	日光表は百年来の大洪水大荒れ、日光大日堂池決壊、稲荷川氾らん甚し。(老農関根矢作)
明治18.7.1 (1885年)	暴 風 雨	近畿、中部、関東大風雨洪水。下野の鬼怒川非常の満水の為に宝積橋をも流失した程なれば四川の水も溢れ、那珂川、渡良瀬川も出水したり。(明治編年史)